

新岡垣風土記

第419回

岡垣の村絵図

— 遠賀郡原村絵図 —

岡垣歴史文化研究会 石田 健次

岡垣町文化財資料室に「遠賀郡原村繪圖」と書かれた村絵図が保存されている。

遠賀郡原村とは、現在の岡垣町大字原である。

この村絵図は、15センチメートル×49センチメートルの大きさで、川は青色、山は緑色、道は黄色、民家は黒色、田畑は白で表現されており、鮮やかに彩色されている。

同じような村絵図は、岡垣町では糠塚村と山田村のものが残っている。この3枚の絵図は、地名の書体や方位の表し方など、その描き方が共通しており、江戸時代後期に同じ絵師により作成されたものと思われる。絵図に描かれた内容から、江戸時代の原村の様子が分かってくる。

本村の集落内には民家のほか、年貢米の収納などに使われた「御

米蔵」(この「御米蔵」は糠塚村絵図と山田村絵図にも描かれている)、お堂の「不動」、祠の「貴船」が描かれている。

また、本村から西方の離れた場所にある枝郷(枝村)の「原野」には2戸の民家がある。

主な道は、内浦村から本村に入り波津村へ通じるものと枝村の原野を結ぶ2本である。

村内を流れる川は、湯川山を水源とする妙見川で、村内を蛇行しながら海へ入っている。

農業に必要不可欠な灌漑用水として溜池(堤)がある。絵図には5つの溜池が描かれており、最初に築造されたのは「菅原堤」で延宝2(1674)年である。約30年後の元禄15(1702)年に「一ノ井手堤」が築造され、その後、「堀地堤」が宝暦4(1754)年に、「原野

堤」が寛政12(1800)年に築造された。「金蔵堤」は文化15(1818)年に築造されているので、原村絵図はこの年より後に作成されたことが分かる。

明治初期に調査し発行された「福岡県地理全誌」によると、原村の溜池の数は、築造年不明のものを含めると13個あり、岡垣の村の中では一番多い。

絵図には「妙見宮」が2カ所描かれている。一つは海岸

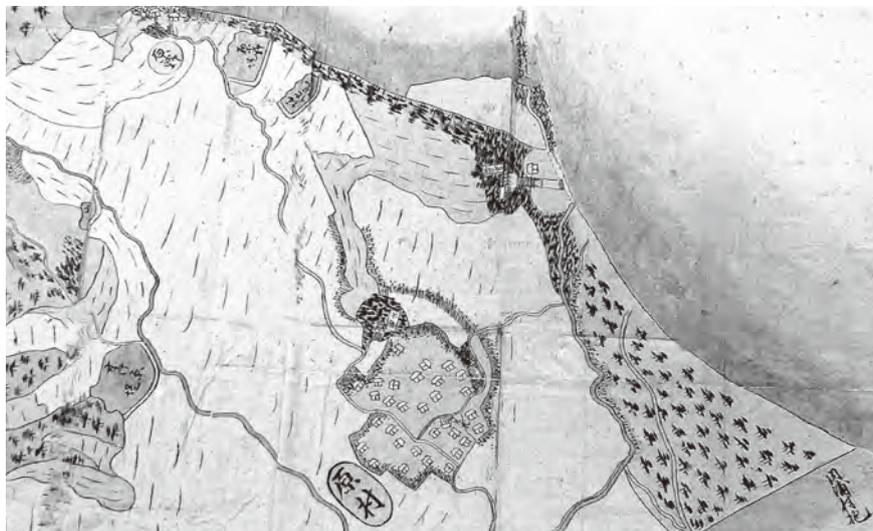
近くに、もう一つは本村から遠く離れた山中にあり、それぞれ「浜妙見」「山妙見」と呼ばれていた。

浜妙見は、福岡城築城にあたって鬼門の位置にあることから、その鬼門封じのために、黒田長政が慶長17(1612)年11月に鳥居を建立している。絵図には鳥居とともに社務所と思われる建物が描かれている。

山妙見は、本村から人里離れた山深いところにある。絵図には、山妙見へ参詣する道は菅原堤からのみで、本村からの道は描かれていない。おそらく菅原堤までは田畑の畦道

などを通っていたものと想像される。

一村一社の制により、明治5(1872)年に山妙見は村社「大原神社」と名称が変更になり、浜妙見は廃社となった。しかし、大原神社は本村から遠く離れた険峻の場所にあったため、老若男女が参詣するには不便であることから、明治16(1883)に浜妙見の跡地である現在地に移転した。



▲遠賀郡原村繪圖(部分)